

—平成 24 年 11 月 15 日

防災訓練研修  
～花折断層活動時の直下型地震を想定して～

理学研究科 安全管理掛長  
森 直樹

① 目的

- (ア) 人はイメージできない状況に対して、適切な心構えや準備などはない。自分の頭で災害状況を考え、その対策を講じることのできる災害イメージネーションを向上させる。
- (イ) 特に今回は、阪神淡路大震災では死者の約 80%が発生した、外部機関の援助もない、震災発生から約 1 時間までの初期対応を中心に検討する。

② 訓練方法

- (ア) 地震前後の課題・問題の発見、起こりうる被害（事故）を予想する。
- (イ) その課題・問題・被害の対応策を協議し、想定した被害（事故）、対応策、問題点を発表する。

③ 実施場所 理学研究科セミナーハウス

実施日時 11 月 15 日(木) 12：45～14：45

④ タイムスケジュール 12：45 分スタート

- (ア) ガイダンス 防災訓練の目的 あいさつ（左京消防署）----- 5 分
- (イ) 花折断層活動時の被害想定、阪神淡路大震災の被害説明、初期対応の重要さの説明-----10 分
- (ウ) 資料配布及び DIG のやり方説明-----10 分
- (エ) 資料配布
  - ① 被害想定封筒を各チームに付き 3 部取って貰う。
  - ② チーム毎にファシリテーターと記録者（討議の内容と結果を記録する）を決める。-----5 分
- (オ) DIG 開始 13:15 分スタート
  - ① 災害規模の発表 13:15 スタート-----5 分
  - ② 10 分毎に計 3 回、災害スケジュールと被害想定封筒の開封により、被害と被災者を想定し、どのように対応するかを討議してもらう。-----30 分

- ③ まとめ-----20 分
- ④ 発表-----30 分
- (カ) 講評 (左京消防署) ----- 5 分

⑤ 事前準備

- (ア) 地震時の対応をより現実的に検討するため、事前に、普段居る研究室等の写真を撮ってきて貰う。忘れた所の為に適当な研究室等の写真を用意する。
- (イ) 受付、進行役 (森)、アドバイザー (左京消防署)、写真掛のスタッフ。
- (ウ) 北部構内配置図の A 0 サイズ、近隣の配置図 (病院、消防署、警察、役所など) A 1 サイズ。各館建物平面図 A 3 サイズ
- (エ) 筆記用具 (貸出用)
- (オ) ホワイトボード (発表時に使用)
- (カ) 被害想定を入れた封筒 (負傷者の名札 (氏名、性別、年齢、負傷状況、箇所、重傷度)、被害発生箇所の部屋名・災害内容)

⑥ ルール・設定

- (ア) ターン制で進行する。
- ① ターン毎に状況が進行する。
  - ② 指定されたターンで指定の被害想定封筒を開けてもらう。
- (イ) 物品や設備については実状のとおり。
- (ウ) 災害スケジュールと被害想定封筒の開封により、ターン毎に災害と負傷者が発生するので、チーム毎に
- ① 現状の物品・装備等でどういった対応が出来るかを検討する。
  - ② 現状の物品・装備等がないもので被害を軽減するために必要なものがあれば、どういった物品・装備や準備が必要かを話し合い、具体的 (物品・装備であれば、機能、数量、配置場所等) にまとめる。
  - ③ 設定された被害想定以外でも気づいた課題 (問題) があれば、記録し、解決策を検討する。
- (エ) ターンごとに全体に関係する災害や状況変化をモニターに映し出す。
- (オ) 最後に個人、部屋、部局、大学等の各レベルでの解決策や対応案、問題点をチーム毎に発表する。

⑦ 災害スケジュール

- (ア) 平成 24 年冬午後 13 : 15 気温 3 度 くもり
- ① 花折断層を震源とするマグニチュード 7.5 の地震が発生
  - ② 京都大学北部構内は震度 7、京都市全域でも 6 強の揺れが発生。

- ③ 市内全域で停電、断水、断ガス、電話不通、携帯電話も容量オーバーで使用不可。
- ④ 市内では倒壊建物が多数、火災も発生する。(被害想定は市内で全壊 12 万戸、負傷者数 6 万人 (内重傷者 1 万人) 死者 5 千人、避難者 30 万人、要救助者 3 万 6 千人)

(イ) 地震発生時

- ① 大地震です。始めに何をしますか？
  - 1. ※強烈な揺れ、横方向の加速度は 2 G
  - 2. 人や物、建物付帯設備はどうなるか？
  - 3. その結果、何が起こるか？

(ウ) 13 時 20 分揺れが収まった。(1 ターン)

- ① その次は？
  - 1. 周りを見渡すとどんな状態、状況になっているか？

(エ) 13 時 25 分 (2 ターン)

- ① 全館共通被害
  - (ア) 電話不通
  - (イ) 停電
  - (ウ) 断水
  - (エ) 断ガス
- ② この段階で起きているとおもわれる被害やこれから起きそうな被害を想定し対応を協議する。
- ③ あわせて被害想定 of 封筒を開封し、対応を協議する。(被害想定 1 回目)

(オ) 13 時 35 分 (3 ターン)

- ① 被害想定 of 封筒を開封し、対応を協議する。(被害想定 2 回目)

(カ) 13 時 45 分 気温 3 度 余震震度 6 程度発生、雨が降り始める。(4 ターン)

- ① 被害想定 of 封筒を開封し、対応を協議する。(被害想定 3 回目)
- ② 住宅が倒壊した近隣住民 30 名が避難先と雨宿りを要望してきた。軽傷者 5 名含む。どうするか？
- ③ 京都市内に自宅のある教職員及び学生が自宅の安否確認に帰りたいとの申し出をしている。どうするか？遠方の教職員や学生の帰宅希望は？

⑧ まとめ (～14 : 10)

- (ア) 課題など、対策・対応の項目で内容が似たもの、関連のある内容の付箋をグループにする。
- (イ) その対策・対応を実施するために必要なもの (装備、設備、研修、WG 等) を右端の欄に付箋に書いて貼り付ける。

⑨ 発表 (14 : 10～14 : 40)

(ア) チームごとに検討した内容とこの訓練で今後、準備や対応等しなくてはならない  
と思われたことを発表する。

⑩ 講評 (14 : 40～14 : 45)